北海道医歌人会詠草

加高原・季節は巡る

滝川 村 is 田 t 英で後に

緑なす野辺の裸の緬羊が成吉思汗に供される夏 菜花は満月・黄信号・阪神のチームカラーに勝る黄の色 快晴のもとに菜の花咲きあふれ嘘なきところにウクライナ思う まっ白なプリンの如き丸加山 秋深く丸加にコスモスすでになく朝焼け空に雪虫の舞う 三日月で切り夜空に放たん

エゾリンダウ

泉

札幌 浜島

落ち葉掃きツタの色葉のひとひらは わが庭のエゾリンダウがつぼみ持つ 雲の形と流れにも季 並びの家の垣根のものか

夕よりは雨の予報に ニホヒヒバ枯れ葉を払ひ掃きて寄す 落ち葉掃き予定繰り上ぐ風来ぬうちに 香り嗜み作業の余得

鉢植えを取り込む日和

雪虫を手もて払ふて空をば見上ぐ

メランコリ

路 児: 玉: 昌彦

そのむかし礼儀に厚く何よりも子を愛しみし民にてあれど 経済と技術に頭おかされて魂なくした日本の今 激動の一年だったが来年は更に厳しい年になるぞと いずくにか出口あるべし 駆け足で走り抜けたる一年の想い新たな写真の数々 暗闇にまなここらせど光見えざる

> 案の定不合格の通知あり 貴君は行く ***公務員上級職に挑むとの決意を我等は讃えしものを 欲も無くモラトリアムの日々なれば ヒッピー然たる長髪で 前田利明(2)-平然とせし貴君何想う 友皆能力を歯痒しと思う 霞ヶ関の最終面接 一思い出北広島 古屋雅三知

雪兔

青春のモニュメントなり

ただ単に挑戦だったと明かす心境

函館 水質を

清

廃駅を貫き走る 冬の陽の注ぐ窓辺で 雪合戦 熱々の葛湯を前に 小さき穴 開けて熟柿を啜りたる ハイハイの子に それは風それ光 一輌車 大夕焼けの海は変わらず 語り出す 雪の中から雪の玉飛ぶ 子の学校の一日を聴く 小さき口より零れる光 教えて小春のひと日を過ごす

月夜幻想

士別 竹けりち 幹。

月凪て流るる髪に溺れゆく 繊月はメゾソプラノに君歌ふ 恋は野の鳥ジプシーの子と 月影は皎々として身を濡らす 我は佇ちをり魂奪はれて 十六夜はやはらか羽毛の君被く 十三夜ピアニッシモにてきみを弾く G線上の指顫はせて 輪廻転生君の掌の上 花咲き乱る春の野原に